

南インド洋における台湾ミナミマグロ船団の海鳥に対する影響

要旨

南インド洋における 2007 年 1 月から 2010 年 8 月までの台湾ミナミマグロはえ縄漁船にかかる 28 航海のオブザーバーデータを利用して、海鳥混獲のスケールを推定した。130 羽の海鳥が混獲された。その主体は キバナアホウドリ、マユグロアホウドリ、ワタリアホウドリ及びノドジロクロミズナギドリであった。主たる混獲は、東経 65-95 度・南緯 30-40 度の間の南西インド洋における 5 月から 8 月まで、南アフリカ沖（東経 20-40 度・南緯 35-40 度）の 12 月から 2 月までであった。混獲率は、各投縄につき 0 から 2.02 羽/1000 鈎針の範囲であった。平均ノミナル混獲率は、0.022 羽/1000 鈎針であった。推定混獲数は、748 羽から 1166 羽の範囲であった。海鳥の混獲を回避するため、緩和措置（トリライン、加重枝縄等）が使用されている。